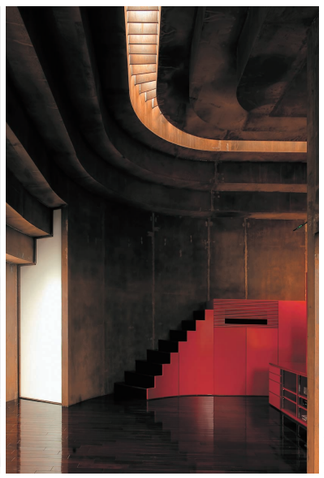
IRONHOUSE

設計：椎名英三建築設計事務所＋梅沢建築構造研究所

地階リビングから見る。右にアウタールーム、奥にダイニング、キッチン、化粧室、物置



左――地階リビングからアウタールームを見る
右――2階リビング　右奥に書斎、正面の階段はロフトにつながる

1階洗面化粧室から浴室方向を見る。奥はアウタールーム上部。建具はすべて引き込まれる

鉄錆の空間に住む

椎名英三
EIZO SHIINA

2階ロフトの書斎

北西面全景

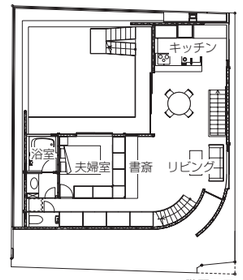
東京・世田谷区の静かな住宅地にこの建築は建っている。この建築のオーナーである梅沢良三氏は、構造デザイナーでもあり、この建築の共同設計者でもある。この建築の特徴は、道路から見える2階建ての建築そのものが、すべてコールテン鋼の錆で覆われた特異な外観にある。しかし、恐らく私たちが侘び寂びの文化を持つが故にであろうか、人々はそれを、特異ではあるが不自然ではない、と感じているかのように私には思われる。コールテン鋼錆仕上げはこの建築の内部にも浸透しており、地階を除き1・2階の壁、天井、屋根、2階の床、そしてほとんどすべての建具は、コールテン鋼材もしくはこの建築の構造体でもあるそのサンドイッチパネルによって構成されている。

家族構成は、親夫婦と子夫婦であり、前者が地階および1階を使い、後者は玄関のみを1階として2階を使うように計画された。

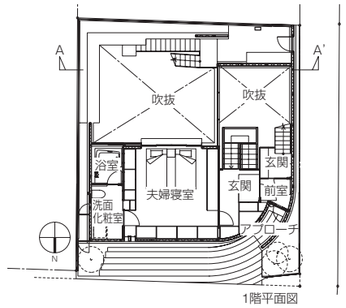
敷地は幅員4mおよび2m未満の私道に囲まれており、建築はそれらの私道に沿ってL字型に配されている。L字に囲まれた空間はアウタールームと名付けられ、地階に位置づけられた。アウタールームというのは、単なる中庭ではなく、植栽部分を残して床には仕上げが施され、そこにテーブルやベンチが配されて、屋外の空間を日常使用できるように設えられた外の部屋である。季節の良い時などにアウタールームの緑陰の下で、お茶、食事、お酒、読書、昼寝などを楽しむことは、住まうことの大きな歓びでもある。そこにはペット用水栓もあり、1階バックヤードを経て外部へと犬の散歩に出入りできるようになっている。そして、地階から緑化された屋上階へと至る屋外階段は、この建築の鉛直動線となっている。地階の空間は親夫婦のリビング、ダイニング、キッチン、書斎、物置、化粧室、階段などが約20坪の面積のうちにあるが、10坪のアウタールームと一体的な空間となることで、空間に大いなる拡がりを感じることが可能となった。地階キッチンのシンクには「タッチレス水栓ナビッシュ」があり、手を触れずに操作できる快感を味わえる。また、「即湯システム」も導入され、給湯器との距離を感じることなく温かなお湯をすぐに出すことができる。

1・2階の浴室は共通仕様であるが、シンプルな50角の白タイルで床と腰を仕上げ、その他のコールテン鋼部分は錆の問題もあって、ウレタン樹脂塗装で白く被覆されており、この建築で唯一の真っ白な空間となっている。ここで用いられている便器は、狭い場所でも使用可能な「サティス」が選択された。

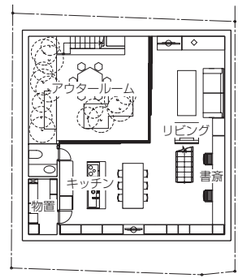
2階の主たる空間は、壁およびコンター状の天井がコールテン鋼の錆仕上げで統一されている。その流動的なL字型の大きな空間の中で、寝室などの小部屋はその外装を赤く塗装され、軽い構造でつくられており、その上部はロフトとして使用されている。ロフトはアルミニウムの銀色の床と家具によって規定され、錆の茶色の艶のない空間の中で未来的な響きを携えて存在している。一方、キッチンは黒く塗色された家具としてつくられている。それらはともに将来の変化に対応可能であるように考えられていると同時に、コールテン鋼の断固とした空間の中で、赤と黒が相対する緊張関係を創出している。✽



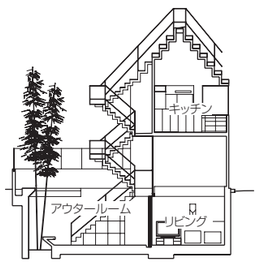
2階平面図



1階平面図



地階平面図　縮尺1/300



A-A' 断面図　縮尺1/300

■建築概要

名称：IRONHOUSE
所在地：東京都世田谷区
家族構成：親夫婦＋子夫婦
敷地面積：135.68m²
建築面積：66.77m²
延床面積：172.54m²
規模：地下1階、地上2階
構造：S造、RC造
工期：2006.9～2007.10
設計：椎名英三建築設計事務所＋梅沢建築構造研究所
施工：滝澤建設＋高橋工業

●INAX使用商品●便器：サティス D-315、タイル：アコルディM

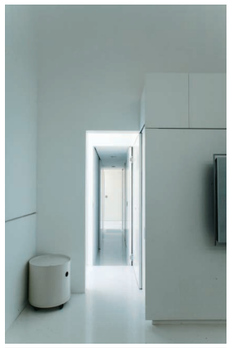
しいな・えいぞう――建築家／1945年生まれ。1967年、日本大学理工学部建築学科卒業。1968年、宮脇檀建築研究室。1976年、椎名英三建築設計事務所設立。
主な作品：SCALA GRIGIA（1998）、空の光の家（2005）、紅い葉の家（2005）、星居（2005）など。

ナチュラルパッチ

設計：遠藤政樹／EDH遠藤設計室

上──2階リビング
下──南西面全景

上──リビングから廊下を見る。奥は主寝室
下──スリット窓と南側駐車場



遠藤政樹
MASAKI ENDOH

□お金を稼ぐ建物

この住宅は、夫婦とその3人の子どもの5人家族のために計画されました。敷地は、東京23区の外れの、南西角地の道路に広く接する位置にあります。こうした条件を利用し、建物を持ち上げることで駐車スペースをできるだけ多く確保する案が考えられました。それは、住まい手の駐車スペースとして使われるのではなく、貸駐車場にして、その収入を見込み、建設にかけられる資金をより増やすことで、生活空間を豊かにするものとして考えられています。通常、生活空間を充実させるために考えられる外部空間には庭が挙げられるのですが、それとは別のアプローチとなります。今までの狭小地における経験から、外部空間が有効にとれない場合でも、豊かな生活空間を確保できる確証を持っていましたので、こうした経済性を最優先に考えた案を採用することにしました。

□小さくとも明るいキューブ

そしてこの外部空間の上に、生活主空間となる3つのキューブを置いています。南と北のキューブは、天井高のある一室空間で、南がリビングルーム、北が夫婦のための主寝室となっています。中央のキューブは2層の空間を持ち、下階は玄関兼妻が洋服をつくるためのスタジオ、それと長男のスペース、上階は浴室などの水まわりと2人の娘のためのスペースになっています。

下の空間の自由さは、これらのキューブが、東側の隣地境界壁のようなコンクリート壁の上に載ることで確保されています。底面以外の各キューブの5つの面はスチールで構成されています。キューブ自身は、モデュール1,050mm幅のはしご型をしたスチール・ユニットによる構造形式で、コンクリート打設後に現場で組み上げられました。南と中央のキューブは4ユニット×4ユニット。北は3ユニット×3ユニットです。

そしてこの各ユニットがはしご型であることを利用して、この建物には2種類の窓がデザインされています。1つは、ユニットのつなぎ部分に当たる20mm幅のスリット窓で、つなぎ目を基準にして縦横ランダムにデザインされました。もう一つは、ユニット自体に白い断熱材を挟み込み、その内外をガラスで覆った大きな開口です。それら両方ともに光を通す半透明な開口であり、内壁を白くすることで、それらの窓から入る、たとえわずかな光でも、拡散した均質な明るい室内空間が実現されています。✽

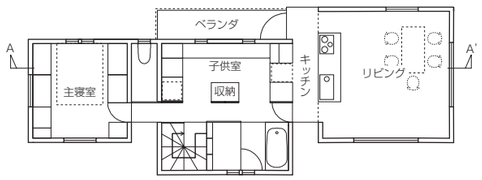
えんどう・まさき──建築家／1963年生まれ。1987年、東京理科大学工学部建築学科卒業。1989年、東京理科大学大学院修士課程修了。1989〜94年、難波和彦＋界工作舎。1994年、EDH遠藤設計室設立。現在、東京理科大学理工学部、首都大学東京、千葉工業大学非常勤講師。
主な作品：ナチュラルエリップス（2002）、ナチュラルシーム（2004）、ナチュラルフレックス（2007）、ナチュラルトリップスⅢ（2007）など。

■建築概要

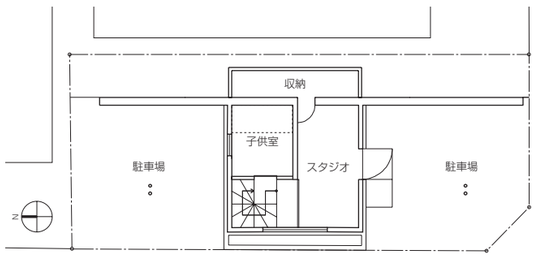
名称：ナチュラルパッチ
所在地：東京都練馬区
家族構成：夫婦＋子供3人
敷地面積：94.35m²
建築面積：56.24m²
延床面積：86.59m²
規模：地上2階
構造：S造
工期：2006.6〜2007.2
設計：建築：遠藤政樹／EDH遠藤設計室、構造：名和研二／なわけんジム
施工：THモリオカ

●INAX使用商品●便器：サティス D-215P、紙巻器：CF-12C、洗面器：GL-275FCR、水栓金具：LF-E340S

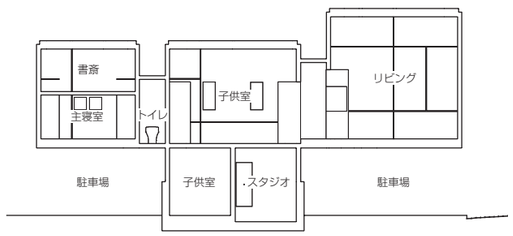
2階トイレ



2階平面図



1階平面図　縮尺1/200



A-A' 断面図　縮尺1/200